

## 安全データシート

### 1. 製品及び会社情報

製品名 : FAシーラー  
会社名 : DXマテリアル株式会社  
住所(東京営業所) : 東京都足立区六町 4-7-3  
電話番号 : 03-6869-4434  
推奨用途及び使用上の制限 : 土木建築用

### 2. 危険有害性の要約

GHS 分類  
どの危険有害性にも該当しない。もしくは分類できない。

#### ラベル要素

絵表示又はシンボル : なし  
注意喚起語 : なし  
危険有害性情報 : なし  
(注意事項) : ・接着作業中、乾燥中、養生中とも換気をよくしてください。  
・取扱い中はできるだけ皮膚に触れないようにしてください。  
・容器からこぼれた場合には布等で拭き取り、密閉容器に回収してください。  
・取扱い後は、うがいを行ない、石鹸水等で手洗いを十分に行なってください。

### 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物  
一般名 : 水性エマルジョン

化学名	化学式	含有量 (%)	官報公示整理番号 (化審法 No.)
スチレン-(メタ)アクリル酸エステル 共重合体	$(C_8H_8)_x-(C_3H_3O_2-R)_y-(C_4H_5O_2-R)_z$	12~16	非公開
2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタンジオール モノイソブチレート	$C_{12}H_{24}O_3$	0.5~2	2-778
プロピレングリコール	$C_3H_8O_2$	0.5~2	2-234
水	$H_2O$	83~87	—

### 4. 応急措置

吸入した場合 : 蒸気、ガスなどを吸入して、気分が悪くなった場合は、直ちに空気の新鮮な場所に移動させて、安静、保温に努め、速やかに医師の手当を受ける。  
皮膚に付着した場合 : 付着した衣服、靴をぬぎ、付着した部分を水または微温湯を流しながら洗浄する。  
目に入った場合 : 清浄な水で最低 15 分間目を洗浄した後、直ちに眼科医の手当を受ける。  
飲み込んだ場合 : 水でよく口の中を洗い、直ちに医師の手当を受ける。

### 5. 火災時の措置

消火剤 : 水、強化液、泡消火剤、粉末消火剤、ハロゲン化物消火剤  
特定の消火方法 : ・このもの自体には可燃性はないが、水分が蒸発した後の乾燥物は可燃性である。  
・燃焼の際は、火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。  
・延焼の恐れのないよう水スプレーで周辺を冷却する。

- 消火を行う者の保護 : ・消火作業は風上から行う。  
: 消火作業の際は適切な保護具（送気マスク、自給式呼吸器等）を着用する。

## 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項 : 作業の際には保護靴、保護手袋、保護眼鏡などの保護具を着用する。  
環境に対する注意事項 : ・流路を毛布・土嚢等を用いてせき止め、河川、湖沼への流出を防止する。  
: 河川、湖沼へ流入した場合は、必要に応じ、警察署・消防署・都道府県市町村の  
公害関連部署・河川管理局・水道局・保健所・農協・漁協等に直ちに連絡を取る。  
除去方法 : 多量流出の場合はバキューム等で汲み上げ、又少量流出の場合はおが屑、土砂、パーライト等を混ぜモルタル状として凝固回収する。  
二次災害の防止策 : 漏出した場所の周辺には、ロープを張るなどの措置を行い、作業員以外の立ち入りを禁止する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い  
技術的対策 : ・適切な保護具（ばく露防止及び保護措置の項を参照）を着用する。  
: 手洗い、洗眼、うがい等の設備を設ける。  
注意事項 : ・取扱いは換気の良い場所で行う。  
: 残液や、洗浄に使用した水は下水には流さないようにし、廃棄上の注意の項を参照して適切に処理する。  
安全取扱い注意事項 : 取扱い後は手、顔等を良く洗い、うがいをする。  
保管  
技術的対策 : 皮張り防止のため容器を密閉して保管する。  
混触禁止物質 : なし。  
適切な保管条件 : 凍結、直射日光を避け、5℃から35℃の屋内で保管すること。  
安全な容器包装材料 : 水含有製品の為、ポリ容器、内面ポリマーコーティングした容器等。

## 8. ばく露防止及び保護措置

- 設備対策 : ・室内で取扱う場合は、局所排気装置又は全体換気装置を設置するほうが好ましい。  
: スプレーなどの使用で飛散する可能性がある場合はその対策をとる。  
管理濃度 : 設定されていない  
許容濃度 : ー  
保護具  
呼吸器の保護具 : 簡易マスク  
手の保護具 : 保護手袋（ビニール製・ゴム製）  
目の保護具 : 保護眼鏡  
皮膚及び身体の保護具 : 長袖、長ズボンの作業服、保護帽、保護靴  
衛生対策 : ・保護具は保管場所を定めて保管し、清潔なものを使用する。  
: 取扱い場所の近くに手洗い、洗眼、うがい等の設備を設け、その位置を明示する。

## 9. 物理的及び化学的性質

- 物理的状態 : 液体  
色 : 乳白色  
臭い : 微アクリル酸  
融点・凝固点 : 約0℃  
沸点又は初留点及び沸点範囲 : 約100℃  
可燃性 : なし  
爆発下限界及び上限界/可燃限界 : データなし  
引火点 : なし  
自然発火点 : なし  
分解温度 : データなし

---

pH	:	8~9 (2倍希釈)
動粘性率	:	90mm <sup>2</sup> /s (動粘度：<100mPa・s)
溶解度	:	水で無限大に希釈可能
n-オクタノール/水分係数 (log 値)	:	データなし
蒸気圧	:	データなし
密度及び/又は相対密度	:	約 1.1g/cm <sup>3</sup> (23℃)
相対ガス密度	:	データなし

---

## 10.安定性及び反応性

安定性	:	一般的な貯蔵・取扱いにおいて安定である。
特定条件下で生じる危険な反応	:	知見なし
避けるべき条件	:	凍結させないこと。
危険有害な分解生成物	:	知見なし

---

## 11.有害性情報

(混合物として)

急性毒性	:	経口 データなし
	:	経皮 データなし
	:	吸入 データなし
皮膚腐食性・刺激性	:	データなし
眼に対する重篤な損傷・刺激性	:	データなし
呼吸器感作性	:	データなし
皮膚感作性	:	データなし
生殖細胞変異原性	:	データなし
発がん性	:	データなし
生殖毒性	:	データなし
特定標的臓器 (単回ばく露)	:	データなし
特定標的臓器 (反復ばく露)	:	データなし
誤えん有害性	:	データなし

---

## 12.環境影響情報

移動性	:	水域へ移動する可能性がある。
水生環境急性有害性 短期 (急性)	:	データなし
水生環境慢性有害性 長期 (慢性)	:	データなし
オゾン層への有害性	:	データなし

---

## 13.廃棄上の注意

残余廃棄物	:	<ul style="list-style-type: none"><li>・廃棄処理を業者に委託する場合は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約を結び、産業廃棄物管理表 (マニフェスト) を交付して適切に処理すること。</li><li>・焼却する場合は、大気汚染防止法、廃掃法、ダイオキシン類対策特別措置法及び都道府県市町村条例等に適合する焼却設備を用いて行う。</li></ul>
汚染容器・包装	:	<ul style="list-style-type: none"><li>・廃棄処理を業者に委託する場合は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約を結び、産業廃棄物管理表 (マニフェスト) を交付して適切に処理すること。</li><li>・焼却する場合は、大気汚染防止法、廃掃法、ダイオキシン類対策特別措置法及び都道府県市町村条例等に適合する焼却設備を用いて行う。</li></ul>

---

## 14.輸送上の注意

---

陸上輸送	:	消防法・労働安全衛生法等に基づき積載、輸送を行う。
海上輸送	:	船舶安全法・港則法等に基づき積載、輸送を行う。
航空輸送	:	航空法等に基づき積載、輸送を行う。
国連分類・番号	:	該当しない。
MARPOL 73/78 付属書 II 及び	:	該当しない。
IBC コードによるばら積み輸送 される液体物質	:	
輸送の特定の安全対策及び条件	:	運搬に際しては、容器に漏れないことを確認し、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

---

#### 15.適用法令

消防法	:	非危険物。
毒物及び劇物取締法	:	該当しない。
労働安全衛生法	:	該当しない。
化学物質管理促進法(PRTR)	:	改正政令（平成21年10月1日施行）に該当しない。

---

#### 16.その他の情報

引用文献	:	<ul style="list-style-type: none"><li>・ JIS Z 7252:2019 「GHS に基づく化学品の分類方法」</li><li>・ JIS Z 7253:2019 「GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示及び安全データシート (SDS)」</li><li>・ 化学工業日報社 「化審法化学物質」</li><li>・ 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合検索システム</li><li>・ 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター GHS モデル SDS 情報</li></ul>
------	---	---

記載内容は当社の最善の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。すべての化学製品には未知の有害性が有り得る為、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、個々の取扱い等の実態に応じて適切な使用条件を設定くださるようお願いいたします。

---